

C-70 背縫いのしまつ——女物ウール単衣長着の場合——

相模女子大学芸 〇永井房子 立正女子大家政 佐藤由紀子

目的 裕長着に比較して縫製，整理の上から容易且つ簡単であるウール単衣長着は，年間を通して日常着また通常外出着として需要が多い。日常の動作からみて背中心の縫目即ち背縫いの布および縫目の変形は大きいと思われる。背縫代のしまつについては数種類の方法があり，いずれが適当であるかは明瞭ではない。今回は居敷当をつけない場合の背縫代のしまつ別による背縫目の織系ずれの状態について，定荷重で反復くり返し実験による，背縫代のしまつ方法と針目の大小による関連性を比較検討した。

方法 試料は市販のウール着尺地を用いた。背縫いのしまつとしては，一般に行なわれている①背伏せ布をつける場合，②折り伏せ縫いによる場合，③千鳥ぐけによる場合，以上の3方法とした。針目は1cm間に3針，4針，1.2cm間に3針と変化させ，手縫い（1cm間に3針の半返し縫いを含む）とミシン縫いの両面より比較した。試験機は万能引張り試験機を用い，荷重を1.5kg，50回反復くり返し後の縫目の織系ずれをクラブ法により実験した。

結果 縫代のしまつの方法別差異については，總体的に折り伏せ縫いによる場合が縫目の織系ずれは大であった。縫い方による方法別差異については，手縫いの半返し縫いによる場合が縫目の織系ずれが一番小さい。また針目の大小による差では，針目の一番細かい半返しの場合が縫目の織系ずれは小さかった。